

【研究テーマ】

登校できない生徒（長期入院生徒や不登校生徒）に対する、オンライン会議システムとクラウド型の授業支援アプリを活用した、学力保障の在り方

【研究の具体】

- ①誰もが活用できる、登校できない生徒（長期入院生徒）に対する遠隔授業の運用について
 - ・ICT操作に苦手な先生にも運用できるよう、可能な限りシンプルな運用システムであること。
 - ・長期入院生徒に、教室にいるかのような臨場感のある双方向型の配信であること。

運用のために用意した ICT 関連機器等

- ・オンライン会議システム（ZOOM）、クラウド型の授業支援アプリ（ロイロノート）
- ・タブレット4台（貸出用1台、学校用3台）、USB-HDMI カメラアダプタ、HDMI 分配器、ケーブル



写真1 教室後方に設置しているタブレット

（ホワイトボード全体を映す用であるが、教師が確認するため、一時的に病室の生徒が映っている画面に切り替えている。）



写真2 USB-HDMI カメラアダプタを使うことで、タブレットに電子黒板の画面をそのまま映すことが可能（教室前方 右に設置）

囲い部分の三画面には、次のものが映されている。
 左：ホワイトボード全体
 中：電子黒板 ※写真2参照
 右：病室から見える映像（教室の最前列に設置。マイクはONにし、教室、病室からの声を届ける。グループ等での話し合い時には生徒が移動させる。）

- ②遠隔授業を通して、育成される情報活用能力やクラスの意識の変容について

- ・写真3, 4以外に、病室からタブレットの角度調整など、遠隔授業への細かな要望をしている。

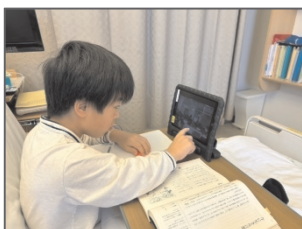


写真3 自分に必要な映像を選択している様子（主体的な学びにつながる）



写真4 ロイロノートを活用し、自分の考えを書いている様子

- ・クラスの意識の変容は、教室にいる生徒の「聞く力」「伝える力」について検証する。

【研究の検証及び改善の手立て】

| | 向上 | 低下 |
|------------------------------------|------|-----|
| いつもの授業と比べて、先生の指示や友達の発言を聴くことができましたか | 32 % | 3 % |
| 別の場所にいる友達が聴き取りやすいように意識して発言できましたか。 | 45 % | 6 % |

図1 クラスの意識の変容に関するアンケート（1年1クラス31名、10、11月の3回実施）

アンケート結果（図1）とクラスの意識が変容してきたと感じる教師が多くなっていることから、遠隔授業による効果が徐々に現れてきている。ただ、意識できている生徒は増加しているものの、ほとんどの生徒自身が別の場所で遠隔授業を受けていないため、相手に伝わる声量では発言することはできていない。しかし、病室から声量への要望もあり、少しずつ改善が見られる。

長期入院生徒やその保護者から「授業に参加できていることはもちろん、休み時間に話しかけてくれるのが本当に嬉しい」との声があった。遠隔授業を通して毎日の授業に参加するとともに、学級への所属感を維持できていることが、心の安定を生んでいる。今後の入院期間も継続して実施していきたい。